

論点

木材の需要情報と供給情報(森林情報)を共有する仕組みはどうあるべきか

(1) 木材加工業者が木材生産者に提供できる情報は何か

<大口需要先>

- 求める木材の樹種、径級、曲がり等の規格、量、時期、価格

<小口需要先>

- 利用者が望む木材、認証材。大径木などの特殊材の需要。

(2) 木材加工業者が木材生産者に求める情報は何か

- 樹種、径級、曲がり、いつ、どれくらい生産されるか。
- 精度の高い森林情報。京丹波町では独自の森林情報システムを導入。システムから予想された出材量と実際の出材量には大きな差はなく、精度の高さが確認できた。
- 伐採前の現地調査情報。立木買い取りの場合は半年前に毎木調査を行うこともある。A、B、C材の出材量情報を提供できる現場もある。
- 協定上の目標数量。京都府内で確実に生産されれば、他府県産の調達を計画的に行えるというメリットがある。

(3) 木材の需給情報を共有する仕組みはどうあるべきか

- シンプルかつ、ある程度標準化して、必要な情報の精度と鮮度をうまくできれば、いい仕組みになる。

<需要・供給情報の標準フォーマットの整備>

- サプライチェーンマネジメントの取組では、取引伝票を標準フォーマット化することで効率化を図ることがある。情報のやりとりは標準化が鍵になる。
- 林業経営高度化センターを運営しているが、木材生産情報の精度と鮮度が大切。いかに精度を上げられるかが課題。
- 大きな組織を作ると運営が大変。システムを作り、情報を共有することで、情報を活用するというのがシンプルなあり方である。
- 仕組みはシンプルであれば良いとは考えるが、シンプルにしすぎると安定供給に結びつかなくなる恐れもあり、両立を検討する必要がある。
- マーケットイン型で木材を生産するには、バックデータが必要。どのような木がどこに、どれくらいあるか、把握しないと対応できない。そうでないと、切ってみないと分からないという状況になってしまう。まずは森林情報の基盤整備を行うための支援が必要。

<情報収集と共有するシステムの作成・運営>

- 情報量は多ければ多いほどよく、まとめるものは一つが良い。さらに、情報をリアルタイムで共有できるようにする必要がある。
- 小規模民間木材生産業者に、直接、情報が来るのではなく、需要者の情報が集約されるセンターのようなどころから情報が入れば複数の生産者で対応も可能になりありがたい。
A、B、C材含めて需要情報が入れば、仕組みとして活用できる。
- 森林資源のクラウド情報に基づき、伐採情報を提供し、取引ができれば良い。
- 情報はいくらでも出せるが、その精度を高めようとすると手間もかかる。精密な森林データが無ければ、プロット調査が必要だが、求められる精度をプロット調査で出そうとすると、手間や高価な測量機器が必要。測量機器やデータ化の支援が必要。

<情報に基づくマッチングの支援、供給調整>

- 木材生産者側の情報と木材加工者側の情報をリアルタイムに共有し随時マッチングしてもらい、取引が成立したのものから納材するのが良い。そういった機能であれば是非利用したい。
- 林地を集約化し間伐を進めており、事業地も広がっている。例えば20haの山では、様々な木材が出てくる。ストックヤードへ一括運搬し、そこで情報を収集(共有)しながら、タイミングを見て、供給していただくとメリットがあるのではないか。
- 需要情報があっても、間伐では対応が難しい場合も多い。木材市場やストックヤードでの調整機能も必要。
- 例えば木材市場に木材を集め、そこから需要先に直送するというふうにすれば合理化できるのではないか。山元と木材加工業者との間にできるだけ壁を減らすべきではないか。
- 実際の特殊材の注文では、「1週間で集めて欲しい」等のタイムリーな要望が出てくる。タイムリーに対応するには、バックグラウンドが必要。2週間以内に伐採可能な森林の情報などを共有するのであれば現場のストックもあることから、仕組みとして役割が果たせる。
- 情報は、行政あるいは森林組合連合会等が収集しやすいのではないか。

<次回へ>

- 京都府産木材の量がまとまれば、木材生産者、木材加工者双方にメリットがある。
- 増産には、伐出等の作業者の人数を増やすか皆伐を進めるしかない。皆伐を進める場合、将来的な価格の見通しも踏まえた提案を行わないと皆伐を勧めることは難しい。森林経営に係る木材価格の動向見込まで共有されるとありがたい。
- 皆伐の推進は、京都府の森づくりの将来像を踏まえて検討しなければならない。これまでの劣勢木間伐から、将来残す木の成長の支障になる木は優勢木であっても切るという将来木施業についても考える必要がある。将来木施業では、優良な材も出てくる上に、山が良くなる。府としていろいろな山の施業の方針を検討していただければありがたい。